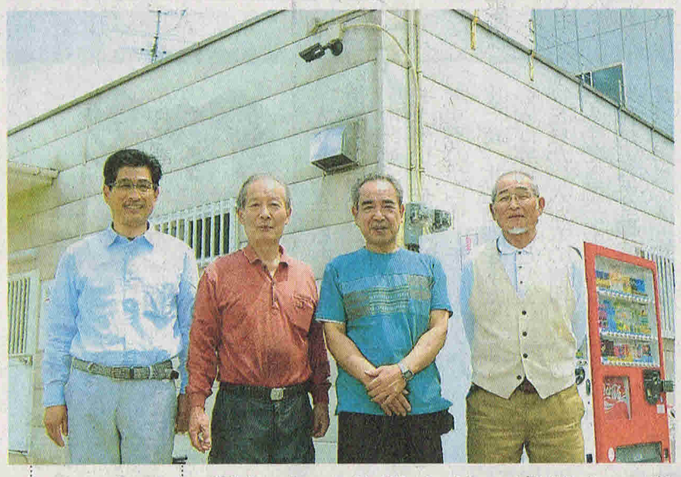
自販機＋防犯カメラ＝地域安全

まちぐるみの設置拡大

松原市内でも第1号

防犯カメラを併設する「地域防犯型自販機」を設置する取り組みが町会などまちぐるみで広がりつつある。飲料メーカーとタイアップし、自動販売機とのバーターで防犯カメラを設置するというビジネスモデル。マンションや駐車場の管理会社など、設置者側は実質経費負担ゼロで、CSR（企業の社会貢献）を兼ねた事業に発展している。

カメラ本体と設置工事費用は飲料メーカーが負担し、電気代などのコストは販売手数料を充てる仕組みで、大阪府内をはじめ兵庫県や和歌山県内でも先例がある。カメラ設置事業を手掛ける「グローバル・コンストラクション」（大阪市中央区、郡文治社長）によると、内蔵されている記録メディアには10日程度の映像が保存され、プライバシーを保持しながら公的防犯にも活用することができるという。



自動販売機に併設された防犯カメラ（上部）と小川町会の関係者ら

松原市内では、5月に小川町会で第1号を設置した。駅前や商店街など行政の助成金でカメラを取り付けるケースはあるが、地域安全に向けたまちぐるみでの取り組みは、一つのモデルになりそうだ。

同町会によると、設置場所に当たる集会所近くの深居神社では、昨年に防護フェンスが2重に取り付けられるまでさい銭泥棒も相次ぎ、隣接する児童公園では集会所の窓ガラスが割れていたり、駐輪場のアクリル板が焼かれていたりということもあったという。行政としても、まちの「安心・安全」を守る第一歩として関心を示している。

同所には児童公園もあり、子どもの安全が優先課題でもある。集会所の管理委員長で、まちの世話役を務める松井秀一さん(67)は「〝安心・安全のまちづくり〟の一環で、地域住民としても考えていかないと。この取り組みが広がっていけば」と話している。

建設業界 人材確保へ

話題を追う

建設業界の人手不足が深刻だ。東日本大震災の復興需要や都市部の建設増加による職人不足で、仕事を受注できないという状況が顕在化。今後、東京五輪の準備で人手不足に拍車がかかることが予想される中、技能工の高齢化も進む。大阪労働局はハローワークを起点に建設業界と協力して人材確保の支援に乗り出した。（木下　功）

建設現場は人手不足が深刻な状況

大阪労働局によると、4月の府内の有効求人倍率は1・09倍。業種別でみると事務職は0・32倍で、1万7088人の求人に対し、5万4017人が求職している。一方で建設・採掘業の有効求人倍率は3・50倍で、6700人の求人に対し、求職者は1917人に過ぎない。建設業界の厳しい職場環境のイメージから求職者が避ける傾向にあるとみられ、ハローワークが業界の魅力を知ってもらおうと動きだした。

■業界を知って

「あべのわかものハローワーク」（大阪市阿倍野区）で30日、「建設業を広く知ってもらうための『業界魅力発見・研究セミナー』」が開催される。人手不足の建設業界と就職難が続く若者の出会いの場を提供することが狙いだ。「ハローワーク大阪東」（大阪市中央区）とあべのわかものハローワークの主催で、あべのハルカスやグランフロント大阪の外壁に使用されている建築資材ALC（高温高圧蒸気養生された軽量気泡コンクリート）を紹介する。

ALCは耐火、断熱、遮音に優れ、軽量なことが特徴。日本で3社しか取り扱っておらず、メーカーである「住友金属鉱山シポレックス」（東京都）が業界の状況を、施工会社である「セルドム・シントー」（大阪市）が現場の声を紹介する。

厚生労働省が建設分野の人材確保で企業を支援する「建設人材確保プロジェクト」の一環で、建設関連の人材に特化した就職面接会なども実施している。

■結果が出る職業

建築物の壁の資材の販工店であるセルドム・シントーの井上邦晴社長は「材料の供給の方はフル回転でできてきたが、人がいないために注文をお断りしている」と話す。現状での人手不足は「1割ぐらいの実感だが、このままでは3割ぐらい不足という状況になる。特に型枠大工や鉄筋工がいない」と指摘し、技能工の養成が急務と強調する。

ハローワーク大阪東の小浜享司所長は建設業について「若い人材が不足している。あべのハルカスやグランフロントなど結果が残る職業、勇気を持って飛び込んでほしい」と呼び掛ける。

【メモ】「業界魅力発見・研究セミナー」は30日午後2時～同3時半に、大阪市阿倍野区阿倍野筋1の5の1、あべのルシアスオフィス棟10階のあべのわかものハローワークで開かれる。定員は50人で参加無料。問い合わせは電話06（4396）7380、同ハローワークへ。

魅力アピール　出会いの場提供

ハローワーク後押し

目指せW杯！

サッカー教室　府内小学生90人参加

サッカーワールドカップ（W杯）ブラジル大会の熱気が世界を覆う中、代表選手がかつて汗を流した西津守さくら公園スポーツ広場（大阪市西成区）で14日、サッカー教室が開かれた。子どもたちは元Jリーガーらの手ほどきを受け、熱のこもった練習に打ち込んだ。

オフィシャルパートナーとしてJリーグに協賛する明治安田生命保険が主催した。子どもの健全育成を目的とした運動の一環で、各地のクラブと連携し11

琴欧洲親方盛り

大阪市長杯わんぱく相撲　トークや「土俵け」

「大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会」が14日、大阪市港区の大阪市中央体育館で開かれ、大阪市内の男女小学生約1500人が参加した。元大関の琴欧洲親方が特別ゲストで登場し、抽選で選ばれた小学生力士たちとエキシビションマッチを行い、館内を大いに盛り上げた。

琴欧洲親方は、表彰

学童疎開70年で体験検証や対談

21日にイベント

「『学童疎開』から70年～記憶を再現し、次代を語り継ぐ」をテーマとするイベントが21日、大阪市中央区久太郎町1丁目の中央区民センター大ホール（中央区役所東隣）で開かれる。午後1時～同4時。入場無料。

主催は国民学校と学童疎開を考える会（奥村誠一理事長）。太平洋戦争中の1944年に始まった学童集団疎開から、ことしで70年の節目を迎えたことにちなみ、当時の子どもたちの体験を検証するとともに、後世に伝える手法などを考察する。

当日は、ジャズピアニストの大塚善章さんと同会理事の藤渓純子さんによる対談「戦時下少国民と、焼け跡から立ち上がったジャズ」のほか、映画「禁じられた遊び」（1952年）を上映。このほか会場内では、関連資料のパネル展示や書籍の販売も予定されている。問い合わせは電話06（1912）4311、同会事務局へ。